

なぜ若者は古着を好むのか

ー古着ブームとアイデンティティー

柳澤直弥

近年、生活の多様化により、ファッションにおいてもその流行の移り変わりは激しい。ファッションはアイデンティティやライフスタイルを表現する重要な要素であると言える。そこで、本研究では大学生を中心に「古着ブーム」が起こっている理由を探る。

本研究では、古着の歴史や流通、消費の変遷を把握した上で、古着に対する若者の意識や価値観を分析する。また、古着が若者のファッションやライフスタイルにどのような影響を与えているのか考察する。

第1章で、古着の歴史と現状について先行研究を整理し、課題を明らかにする。第2章では、古着の歴史について、先行研究や新聞記事から古着の誕生から現代までの変化の過程を明らかにする。第3章では、現代の古着について、古着ブーム、無人古着屋、社会での役割、企業の取り組みについて明らかにする。第4章では、古着に関する意識調査としてアンケート調査を行い、その結果から読み取れることを考察する。

調査結果から、現代では、古着は単なる実用性にとどまらず、個性やアイデンティティを表現するファッションアイテムとして人気を集めていることが分かった。特に、10代から20代の若者たちは、古着を通じて独自のスタイルを楽しみ、他にないデザインやヴィンテージ感に魅力を感じている。一方、古着に抵抗感を持つ人々は、過去の持ち主が不明なことや使用感に対して心理的な障壁を感じることもわかった。しかし、知人からの古着には抵抗感が少なく、信頼関係が影響している。古着のマーケットは、古着に対する抵抗感のせめぎあいによって成り立っている。古着を受け入れる人々と、抵抗感を持つ人々の間には明確な違いがあることがわかった。また、現代の古着ブームではファッション性だけでなく、環境意識の高まりやサステナビリティへの関心が強まりから、リサイクルやリユースの重要性が認識され、古着の価値が再評価され初めている。古着は時代とともにその役割を変えながらも、常に人々の生活に寄り添ってきたと言える。もったいない精神から始まった古着の文化は、今やファッションの一部として新たな価値を見出している。